



神仏おわします山… 霊峰大山への篤い信仰心が 広大なブナの森を残した

古くから山そのものを神として祀り、全山を信仰の対象としていた大山では、近代まで一般の登山は制限され、樹木の伐採も一切禁止されていました。昭和11(1936)年に国立公園として指定されて、その自然・歴史が今日まで保全されることとなりました。

大山夏山開き祭・前夜祭 たいまつ行列



■大神山神社奥宮(国指定重要文化財)

杉の大木に囲まれた静寂の中にたたずむ荘厳な社。両翼が50mある社殿は国内最大級の権現造り。神仏習合の時代の様式で、かつては大智明権現社と呼ばれ、大山信仰の中心を担って来ました。



■自然石の参道

大山寺から大神山神社奥宮へと至る参道は約700m。自然石を敷きつめた参道としては国内最長です。



■大山寺本堂(国登録有形文化財)

本堂は天台宗の古刹で、昭和3(1928)年に一度焼失、同26年に再建されています。もとの大日堂で、明治36年の大山寺号復活に伴い、本堂と定められました。

大山、開山より1300年

古来より山岳信仰が盛んで、修験道の行場として熊野、吉野、金峯山、富士山と並び称されていた大山。山伏たちの修験の山であった大山に、養老2(718)年、金蓮上人が地藏菩薩を祀る草庵を結んだことが大山寺の始まりとされています。平安時代には天台宗の寺院として確立し、鎌倉時代から室町時代にかけて大山寺は隆盛を極めました。100を超える僧坊と3000人以上の僧兵をかかえ、比叡山や吉野山、高野山と肩を並べていたと言われています。江戸時代になると伯耆国領主中村一忠の家老横田内膳に寺領を侵されましたが、豪門僧正が山内の子院をまとめて抵抗し、江戸幕府に三千石の寺領を認めさせました。

●日本遺産認定 平成28(2016)年4月25日 「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」

はくしゅうかくはんざんだいせんじ

伯耆角磐山大山寺絵図

寛政9(1797)年に鳥取藩お抱えの絵師、片山楊谷(かたやまようこく)が描いた

